熱帯の大国インドネシア

～高まる存在感～

海外・現場最前線
からのお便り

海外で活躍する林野庁職員の近況を
シリーズで報告します

在インドネシア日本国大使館　二等書記官
長谷川 学

インドネシアは、面積192万㎢、人口約2.7億人を誇る、ASEAN（東南アジア諸国連合）盟主の大国です。その範囲は非常に広く、東西の長さは約5,100㎞であり、アメリカ合衆国がすっぽり入ります。

経済においては、2040年代半ばまで人口ボーナス期（総人口に占める生産年齢「15歳以上―65歳未満」人口比率の上昇が続く、または絶対的に多い時期）が続くとされ、発展の著しい勢いのある国です。親日国であり、歴史的にも経済的にも日本との関わりは強く、在留邦人も約2万人存在します。首都のジャカルタはまさに大都市です（写真1）。地勢的にも我が国が重視している国であることもあり、当館は日本人職員だけで70名近くを擁する大規模公館となっています（写真2）。

私は経済分野、特に林業・水産担当の書記官として、インドネシア政府との協議及び調整、政策・情勢に関する情報収集、ODA（政府開発援助）や国際機関を通じた協力の支援、日系企業支援等を行っています。加えて、林業や水産業と密接に関係する海上保安や気候変動分野も業務上深く関わっています。我が国の海上安全保障に直結する離島開発等の海洋協力関係の優先度が高くなりますが、大使館内での専門家として、森林・林業に関する情報収集も欠かせません。

インドネシアは森林大国です。森林面積は約9,200万ha（日本の森林面積の約3.7倍）で、熱帯林としては世界第3位を誇ります。海岸付近はマングローブ林（写真3）、低地では熱帯低地林（写真4）、山麓の高地では熱帯山地林が広がります。コロナ感染拡大による行動規制により、豊かな熱帯雨林や広大なアカシア植林の姿を

2 日本大使館（外観）

1 大通りの様子

5 ダイオウヤシ並木

4 熱帯低地林の巨木（Shorea reprosula及び Ficus albipila）

3 マングローブ（Rhizophora stylosa）

見に行けないのが残念ですが、ジャカルタ中心部でもダイオウヤシの街路樹や熱帯の草花が南国の雰囲気を醸し出しています。（写真5、6、7）。

1970～90年代のスハルト大統領時代には開発優先の政策により急速に天然林が失われ、プランテーション開発等が進みました。1999年の新森林法の制定により、地方分権・森林保全・持続可能性重視へと転換して以降、様々な国やNGO等の協力もあって森林減少速度の緩和やガバナンスの向上が進んでいます。

また、インドネシアでは近年、気候変動対策としての森林・泥炭地保全（写真8）が特に重要なテーマです。パリ協定のNDC（国が自ら決定する温室効果ガスの排出削減及び気候変動への適応に関する目標）では、2010年のCO_2排出量のうち森林・土地セクターが49％と最大を占めており、森林保全、森林・泥炭地火災対策、違法伐採対策等を通じた大幅な森林分野の排出削減が求められています。

長年にわたり、我が国はインドネシアから丸太や合板等、熱帯林資源の恩恵を受けてきました。一方で1970年代以降、林業基盤整備や林木育種、生物多様性保全、マングローブ保全、森林火災対策、気候変動対策等、様々な分野で継続的に協力してきた経緯があります。

来年はG20、再来年にはASEAN議長国を務めるインドネシアには、気候変動を対処するリーダーシップへの国際的な期待が高まっています。国際社会で存在感を高めるインドネシアに対し、我が国も対等なパートナーとしていかなる協力を進められるか、意識しながら仕事をしていきたいと思います。

8 泥炭湿地保全（泥炭・マングローブ回復庁提供）

7 プルメリア

6 コンロンカ